

小学校第6学年社会科ジグソー法を用いた学習における

動画クリップの活用

藤木謙壮（備前市立日生西小学校）・小林祐紀（茨城大学）

中川一史（放送大学）・大本秀一（日本放送協会）

概要：備前市では、平成27年度から一人1台のタブレット環境が整備され、タブレットの活用に取り組んでいる。本研究では、NHK for Schoolの動画クリップを授業内で資料として使用し、授業後に児童に動画クリップに関するアンケート調査を行った。調査結果をもとに、新たな資料である動画クリップの効果的な活用方法について考察した結果、動画クリップを活用することで、学習意欲が向上すること、聞き手にとって分かりやすい説明をすることができるという点で効果があると考えられる。

キーワード：NHK for School, ジグソー法, 動画クリップ, 児童一人1台のタブレット環境

1 はじめに

備前市では、平成27年度から児童一人に対し1台のタブレットが配布され、活用方法について研究が行われている。年度末の情報交換の場でも、どの学校でも体育や理科などでは、カメラ機能を使用した授業を行いやすいことが気づきとして報告された。しかし、特定の教科・場面における効果は実証できたものの、その他の活用場面を探す動きにはつながっていない。そのため、次のステップに進むためには新たな使用方法を提案することが必要であると感じている。

そこで本研究では、これまで備前市で活用頻度が低かった社会科における活用に焦点を当てることとする。これまでの社会科の学習で資料として使われてきたのは、教科書や資料集であった。また、動画資料を視聴することがあっても、大型テレビで全員が同じものを一斉視聴する必要があった。しかし、タブレットが一人1台ある環境になると、自分の興味関心にあったものを自分の

タイミングで視聴することが可能になり、資料の選択肢が増えた。このことが、タブレットの新たな活用方法を見つけるきっかけになるのではないかと考えた。

2 研究の目的

本稿では、社会科における新たな資料である動画クリップの効果的な活用方法について考察することを目的とする。

3 実施授業と研究方法

3.1 授業の対象

調査対象：備前市立日生西小学校6学年34名

調査時期：平成28年7月20日～8月6日

実施教科：社会科「3人の武将と天下統一」

（全7時間計画）

3.2 授業設計の際の留意点

3.2.1 NHK for School「動画クリップ」

NHK for School では、学習内容のエッセンスを短くまとめた動画映像を「動画クリップ」として配信している。社会科の動画クリップは、1,500本以上あり、本単元より前の学習全てにおいて関連する動画を見ることができる。また、教科書や資料集と違って映像を見ることができるためイメージがわかりやすく、さらに、ナレーションの言葉を映像と同時に見ることができるので、どの子どもでも活用しやすい資料であると考えた。

タブレットを使用した資料収集として、インターネットでの検索も考えられたが、短い時間内に処理できる情報量、情報の適切さ等の面から、NHK for School の動画クリップを使用することとした。

3. 2. 2. ジグソー法

本研究では、CoREFが開発した「知識構成型ジグソー法」を用いて学習をする。この知識構成型ジグソー法では、はじめに問いに対する自分の考えをもち、それからエキスパート活動・ジグソー活動・クロストーク活動といった友達との交流を通して考えを深め、最後は問いに対する自分の考えをまとめるといった流れで学習する。ジグソー法で学習することによって、問いに対して主体的に取り組んだり、関わり合いを通して学びを深めることができる⁽¹⁾。このようなジグソー法で学習することにより、教科書や資料集、動画クリップといった内容や形式の異なる資料の中から必要な情報を選択する力をつけることができると考えた。

本単元では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の武将の天下統一への取り組みを調べ、集めた情報を比較し、天下統一に最も貢献したと思う武将を決めるという活動を設定した。調べ学習の時間では、ジグソー法を用い、エキスパート活動で「教科書」「資料集」「動画クリップ」の3つの資料を使ってそれぞれ情報を集めた。使う資料については、図表1のような順番にすることで、どの児童も全ての資料を扱えるよう配慮した。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
織田信長	教科書	資料集	動画クリップ
豊臣秀吉	資料集	動画クリップ	教科書
徳川家康	動画クリップ	教科書	資料集

表1 活用する資料の順番

3. 3. 単元計画

①単元のねらい

3つの資料の中から課題を解決するために必要な情報を選択し、他児童と情報を交換し合うことを通して自分の考えをまとめる。

②単元計画

時間	主な学習内容
1	○資料を通して戦国の世についてイメージをもち、学習課題「三人の武将はどのようにして戦国の世を統一したのか」をつくる。
2	○織田信長の天下統一への取り組みを調べ評価する。
3	○豊臣秀吉の天下統一への取り組みを調べ、評価する。
4	○徳川家康の天下統一への取り組みを調べ、評価する。
5	○三人の武将の天下統一への取り組みを比較し、学習課題「天下統一に1番貢献した武将はだれか？」をつくる。
6	○「織田信長」「豊臣秀吉」「徳川家康」の3グループをつくり、討論会に向けての主張や根拠となる資料を用意する。
7	○三人の武将の取り組みをもとに政策について話し合い、課題に対する自分の考えをまとめる。

※下線はタブレットを活用して、動画クリップを視聴した。

3. 4. 研究方法

本研究では、授業後に質問紙調査を実施し、児童がどのように感じていたのかを把握する。

調査は以下の7項目（選択）について行った。

- ① 動画クリップを使うと、進んで調べ学習ができましたか？
- ② 次の学習でも動画クリップを使って調べ学習をしたいと思いますか？
- ③ 選んだ動画クリップの中から必要な情報を見つけることは大変でしたか？
- ④ 動画クリップを使うと、教科書に比べて必要な情報を集めやすかったですか？
- ⑤ 動画クリップを使うと、資料集に比べて必要な情報を集めやすかったですか？
- ⑥ 動画クリップを使うことで、友達に説明しやすかったですか？
- ⑦ 動画クリップを使った友達の説明は分かりやすかったですか？

①～⑦については、質問項目に対して「とても」「まあまあ」「あまり」「ぜんぜん」の4件法による回答を得た。そして、肯定回答（とても、まあまあ）と否定回答（あまり、ぜんぜん）の数を算出し、直接確率計算（両側検定）を行った。

次に、質問紙調査の結果を裏付けるために、生徒への活動のエピソード記録（観察、ノートへの記述）を引用しつつ考察する。

4. 授業の実際

4. 1. エキスパート活動の様子

必要な動画を見るために必要なキーワードを考え、一つ一つの動画を見ながら課題を解決するために必要な動画かどうかを調べていた。たくさんある動画クリップの中からどれを優先的に見ていくのかに悩んでいたり、動画クリップに書かれているナレーションを読み取り、必要な情報をノートに書きとったりしながら学習していた。いくつかの動画を見終わると、友達と見終わった動画に関する情報を交換しただけ多くの動画

クリップを見ようとしていた。

4. 2. ジグソー活動の様子

ジグソー活動でそれぞれの情報を伝え合う場面になると、動画グループに対して「○○○に関する動画クリップはなかった？」と資料の提示を求めたり、動画グループからは「説明に○○○という言葉があったが、どういうこと？」と用語の説明を求めたりしていた。また、動画クリップの中から必要な部分を画面保存して、複数の画像を一覧表示して活用していた。



図1 動画クリップを使って説明する児童

4. 3. クロストーク活動

ジグソー活動でまとめたグループごとの情報を全体で共有する場面では、動画クリップを流すのではなく、画面保存した画像を大型テレビに提示して説明する児童がいた。しかし、全体に対する説明の場で主に活用されたのは教科書や資料集であった。

5 結果と考察

5. 1. 授業の評価

表2に直接確率計算の結果を示す。すべての質問項目に有効回答したのは34名であった。

①②③⑥⑦の質問項目において、人数の偏りが有意であった。したがって、授業について一定程度、肯定的な評価を得たといえる。次節以降、授業における児童の会話も合わせて学習成果について検討する。

質問項目	平均値	SD	否定 (割合)	肯定 (割合)	結果 (両側検定)
設問1	3.50	0.66	3人 (8.2%)	31人 (91.2%)	**
設問2	3.56	0.70	4人 (11.8%)	30人 (88.2%)	**
設問3	2.88	1.09	24人 (70.6%)	10人 (29.4%)	*
設問4	2.85	1.05	11人 (32.4%)	23人 (67.6%)	ns
設問5	2.79	1.04	12人 (35.3%)	22人 (64.7%)	ns
設問6	3.44	0.89	5人 (14.7%)	29人 (85.3%)	**
設問7	3.44	0.79	6人 (17.6%)	28人 (82.4%)	**

n(有効回答数)=34, N(児童全体数)=34 **:p<.01, *:p<.05

表2 直接確率計算の結果

5. 2. 動画クリップによる学習意欲の喚起

質問項目①②の回答結果より、質問に対して肯定的に回答した児童は、①31人(91.2%)、②30人(88.2%)であった。

授業の中でも「今日はどんな動画クリップがあるかな?」「家で動画クリップを見てきたよ」という発言をしたり、「動画クリップを使う順番が早くこないかな」と使用することを楽しみにしたりしている児童が見られた。

これらの結果から、動画クリップを使用することによる意欲付けができたと考えられる。

5. 3. 動画クリップによる情報伝達

質問項目⑥⑦の回答結果より、質問に対して肯定的に回答した児童は、⑥29人(85.3%)、⑦28人(82.4%)であった。

授業の中でも、動画クリップで調べた児童に対して「関連する動画はある?」と資料の提示を求めたり、「この言葉はこう意味だったのか」と理解を深めたことが分かる発言もあった。

これらの結果から、動画クリップが情報伝達の場面において説明する側と説明を聞く側の両方にとって効果を持っていると考えられる。

5. 4. 動画クリップによる情報収集

質問項目④⑤の回答結果より、質問に対して肯定的に回答した児童は、④23人(64.7%)、⑤22人(64.7%)であり、有意差は見られなかった。

授業中には、「動画クリップだと見たいものを見ることができる」「資料集は情報が多すぎて見づらい」「教科書は詳しく書いてない」という発言が確認できた。これらの結果から、児童は情報収集のツールとして動画クリップに一定の効果を感じていると考えられる。

しかし、質問項目③の回答結果より、質問に対して否定的に回答した児童が、③24人(70.6%)であった。これは、授業後に「動画がたくさんあるから全部は見ていると時間がたりない。でも、どれから見ているのか分からない。」という内容の会話がかわされていた。動画クリップを使用することは、見る部分を焦点化することができるという良さの反面、全体像をつかむことの難しさを感じていると考えられる。

6 おわりに

本研究では、社会科の学習において動画クリップを新しい資料として活用した。その結果、動画クリップを活用することで、学習意欲が向上すること、聞き手にとって分かりやすい説明をすることができるという2点において効果があると考えられる。

しかし、教科書や資料集よりも情報を探しにくいという児童の声も多く聞かれた。今後は、そのような児童の困りを軽減することができるよう研究を深めていきたい。

参考文献

- (1) http://coref.u-tokyo.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/04/handbook_all.pdf
(平成28年8月17日取得)